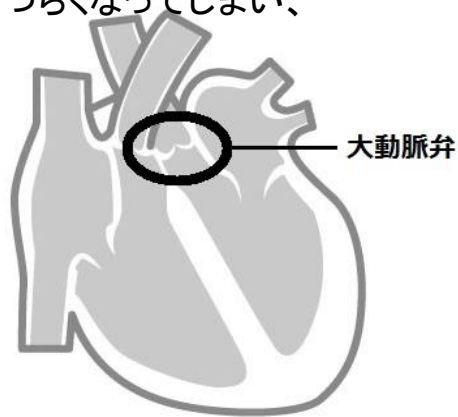


重症化する前に ～大動脈弁硬化とは？～

大動脈弁は左心室と大動脈の間にある弁で、心臓から全身に血液を送り出す出口にある扉のようなものです。正常ならスムーズに開きますが、大動脈弁硬化になると扉は開くものの、少し錆びたような状態になります。このまま放っておくと、錆びついてしまった扉が非常に開きづらくなってしまい、全身に少ししか血液を送れなくなってしまいます。

<大動脈弁狭窄症になってしまうと…>

めまい、狭心症状、心不全など様々な症状が出てきます。特に狭心症状、失神、心不全が出現すると、予後不良と言われています。

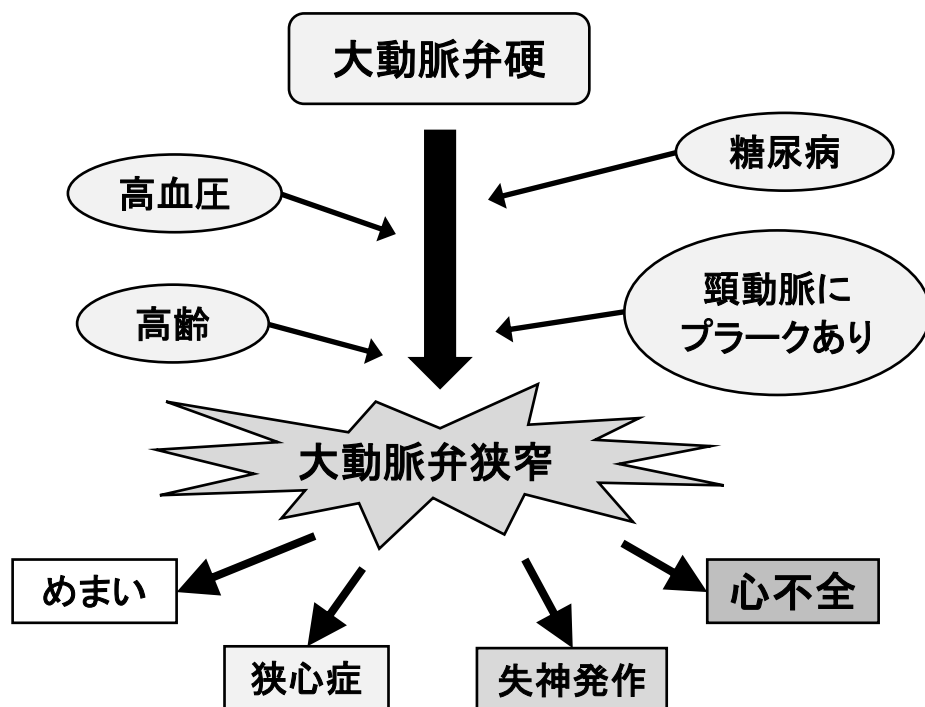


<大動脈弁狭窄症にならない為には？>

大動脈弁硬化から大動脈弁狭窄症への進行には動脈硬化因子が関わっており、これらを改善することが必要です。

動脈硬化因子⇒高齢・糖尿病・高血圧・高脂血症

また、頸動脈壁の肥厚とプラーク(限局的に壁が隆起している部分)があると、大動脈弁狭窄症へと進行するリスクが高くなります。



大動脈弁硬化は超音波検査でわかる！

①心臓超音波検査 [所要時間 15～20分]

大動脈弁は3枚の弁からできています。
その弁が厚くなっていないか、硬くなっていないか、スムーズに開閉しているか、
血液の逆流がないかをリアルタイムで観察する事ができます。
また、弁を通過する血流の速さを測定する事もでき、



正常



大動脈弁硬化



大動脈弁狭窄症

②頸動脈超音波検査 [所要時間は10～15分]

大動脈弁狭窄に進行する因子をチェックする検査の1つ。
頸動脈の壁の厚さやプラークと呼ばれる限局的に隆起している部分の有無をチェックします。
また、頸動脈は脳に栄養を送っている大切な血管です。

<超音波検査の受け方>

検査する部分にゼリーを塗り、
プローブと呼ばれる聴診器のような物でなぞって見ていく検査です。
無侵襲で痛みのない検査です。

・心臓超音波検査

鎖骨～お腹あたりまで見えるようにして頂きます。
また、心電計を装着しながらの検査になりますので、
手首・足首が見えるようにお願いします。
検査は仰向け 又は 左を下にした横向きで検査を行います。

・頸動脈超音波検査



症状や血液検査で異常がなくとも、大動脈弁硬化は始まっているかもしれません。
症状が出てからではなく、
是非 今、超音波検査を受けてみて下さい。